私たちが暮らしたい と思う 未来の日野の街は？	スローガン (合言葉)	やりたいことができるまち
	スローガンの 解説	地域のコミュニティや拠点の機能を強化して子どもたちの「やりたい」気持ちを後押しする地域と教育のあるまち。
	住みたい街を選ぶときに重視するもの	それぞれがどのようになるか。
①	大きなホールやコミュニティの拠点があるまち	地域の公民館など拠点になる場所が便利で、誰にでも使いやすい場所になる。
②	古いものが循環するまち	地域全体で生ごみコンポストなどが積極的に活用できるようになり、コミュニティ農園や自然が楽しめるようになる。
③	子どもが主体になるまち	子どもたちがもっと自分意思ややりたいことを表現できる機会が増えて、それを実際に行動に移せるよう、後押しする仕組みができるようになる。
グループで挙げた意見		

①「大きなホールやコミュニティの拠点があるまち」について挙げた意見

- ・市内には64か所の公民館などがある
- ・まだ施設の予約システムが統一化されていなかったり、システムが使いづらいと感じる。
- ・陸上競技場など全天候型にして色々な競技が誘致できるといい
- ・多摩平にある「うちたす」など、地域住民が参加して内装や設備を一緒に考えた公民館があるのでこうした事例が増えるとよい
- ・スマートロックなどでカギの開け閉めができるようにするなどデジタル技術を活用してより便利に使えるようになるとういと感じます

②「古いものが循環するまち」で挙げた意見

- ・生ごみ回収をしてコンポストをやっている団体があったが予算がなくなってできなくなってしまった
- ・ふれあい農園がたくさんあってよい
- ・ジモティーなどで古い家具などを欲しい人に渡す循環の仕組みが少しずつできているので、こういったシステムがもっと広まってほしい

③「子どもが主体になるまち」で挙げた意見

- ・幼保小連携など教育に関するよい取り組みが行われている
- ・だけど認知されていないように見える
- ・子どものやりたいことを表現できる場所がほしい